

じんけん探訪 86

性的マイノリティ

日本における当事者のイメージ

大多数の男女の在り方とは違うことで、長らく顧みられてこなかったのが性的少数者の問題です。

芸能界でのメディアが作り出すイメージとは対照的にただ日常を穏やかに生きたいだけの一般の当事者は、それに当てはまらない自身とのギャップに長く苦しめられてきました。

「性同一性障害特例法」

日本では、2004年に医師の診断に合わせて特定の要件を満たせば戸籍上の性別を変更できる「性同一性障害特例法」が施行されました。

市民権を得た「LGBT」

LGBTとは、女性の同性愛者（レズビアン）、男性の同性愛者（ゲイ）、両性愛者（バイセクシャル）、身体と心の性が一致していない（トランスジェンダー）の頭文字をとって組み合わせたものです。



人・決めていない人・決まっていらない人を指すクエスチョニングの「Q」や他者に恋愛感情や性的欲求を抱かない無性愛者（アセクシユアル/エイセクシユアル）の「A」、自分の性が男女のどちらにも当てはまらない、あるいは、揺れ動いているエックスジェンダーの「X」や生まれながらにして男性と女性の身体構造を持つ人であるインターセックスの「I」などの頭文字が付け足されることもあり、性の多様性が見てとれます。

性の多様性の受け止め方

性別の種類は、身体的な性、自認する性、指向する性、表現する性の4要素があり、組み合わせによって多様な性のあり方が存在するとされ、男性と女性の2つしかないという認識は、正しくありません。

男性か女性のどちらかではないという社会や意識は、マイノリティの人たちを排除してきたといえます。性については、多様であることを前提として向き合うことが、差別解消の第一歩になるのかもしれない。

「パートナーシップ宣誓制度」

2015年、東京都渋谷区と世田谷区で「パートナーシップ制度」が開始され、7月1日時点で全国の110の自治体で導入されています。

▼問い合わせ 人権課 ☎73・3008

目指せ男女共同参画社会

No.81

ハラスメント防止に向けて

「無意識の偏見」

（アンコンシャス・バイアス）に気付いていますか

自覚の無い無意識の偏見を表す言葉として、「アンコンシャス・バイアス」という言葉があります。

それぞれの経験や育った環境が違うので、モノの捉え方は違って当たり前です。

例えば、職場で育児休業から復帰する女性に対して、上司が女性のことを気遣い「良かれ」と思って仕事量を減らす配慮をしたとします。

性的に働きたいと思っていた場合、上司の「無意識な思い込み」によって、女性にはさまざまな機会が与えられず、これが原因で女性の成長や昇進する機会を奪ってしまうことになりかねません。

この「無意識な思い込み」によって、女性にはさまざまな機会が与えられず、これが原因で女性の成長や昇進する機会を奪ってしまうことになりかねません。

こういったことを無くすためには、相手と会話し、本心やその人の背景を把握することが重要です。

ぜひ、この機会に個々のアンコンシャス・バイアスを目を向け、意識してみてください。

軽に声を掛け合える環境づくりをめざしてみませんか。

▼問い合わせ 人権課 ☎73・3008



健康コラム

Vol.31

コロナ禍での屋外運動と熱中症対策！

外出自粛や在宅勤務などによって、家にいる時間が長くなると、間食が増える傾向にあります。

運動不足で体重が増加すると、新型コロナウイルスに感染した場合に、重症化するリスクが高まるといわれています。



四国学院大学教授 緑ヶ丘総合運動公園センター長 清水 幸一さん

けましよう。さらに、マスクが汗で濡ると通気性が悪くなるので、適度に切り替えることも必要です。

また、過度な日光を浴びることは、皮膚ガンのリスクを高める恐れがあるので避けなければなりません。

この時期、高齢者や1人暮らしの人は特に熱中症に注意すべきです。

体の調子を整えるためには、1日10分ぐらいの適度に、外で活動することも必要です。



空き家などの実態調査を実施します

▶問い合わせ 建築住宅課 ☎73-3044

市では、市内全域の空き家などの状況把握および空家等対策計画を策定するため、空き家などの実態調査を行います。



9月5日から11日は、救急医療週間

▶問い合わせ 三観広域北消防署 ☎72-2119

救急医療の正しい理解と認識を持つ上で、次のことを心掛けましょう。

